

2021年10月5日掲載 輸送経済新聞

新・山形支店しゅん工

第一貨物 市内3拠点の機能集約

第一貨物（本社・山形市、米田総一郎社長）は9月28日、山形市に「新・山形支店」をしゅん工した。今月4日から営業を開始。市内3拠点に分かれていた集配を含むさまざまな機能を集約し、業務の効率化を図る。東京支店の移転新築を含む総額280億円の設備投資「東京プロジェクト」の一環。（井上 真理子）

所在地は山形市黄金45ノ1。敷地面積は約3万9659平方メートル。鉄骨造り約700トの荷物が発着し、車両は約170台配置する。

2階建て、延べ床面積は約2万459平方メートル。東北自動車道山形中央インターチェンジ（IC）近くに位置する。

新支店の1階は完全インドア構造の荷さばき場で、2階には一時保管スペースを設けた。食料

災害時に物資
拠点的役割も

いままでは山形支店は発送貨物、山形流通ターミナルは到着貨物と分かれていた集配機能を新支店



ドライバーの仮眠室や女性用シャワー室も完備した新・山形支店

に統合する。ドライバー区域センターも新山形支店の両拠点の移動がなくなりに業務を効率化できる。形流通ターミナルは営業倉庫として

また、市消防本部西消防署や山形中央ICに近い立地を生かし、災害時の物資保管などを担う。同消防署と連携し、防災拠点としての役割を持つ。

しゅん工式には多くの関係者が出席。武藤幸規会長は「（第一貨物の）80周年に新山形支店をしゅん工することができ、重なる喜びがある。新支店の誕生を契機に、より一層の品質を提供していく」と話した。井上貴至山形市副市長や主要荷主の豆菓子メーカーでん六の鈴木隆一社長などが祝辞を述べた。

米田社長は「（東京プロジェクトで）計画している施設は今年度で全てしゅん工が稼働となる。設備投資の効果を最大限に発揮し、輸送品質を向上させたい」とした。（井上 真理子）